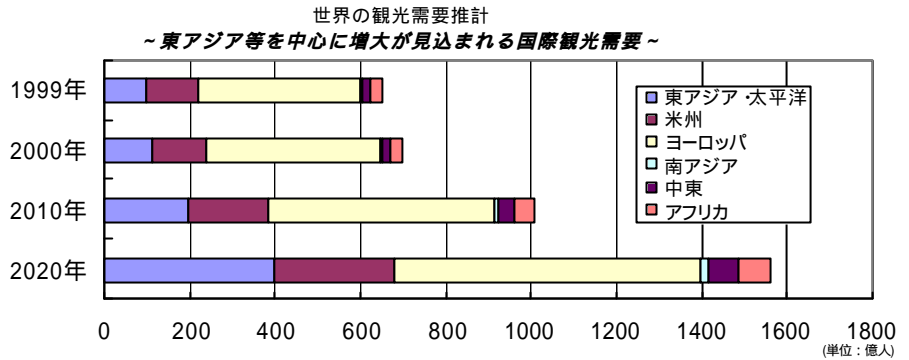


東北 6 県観光振興戦略

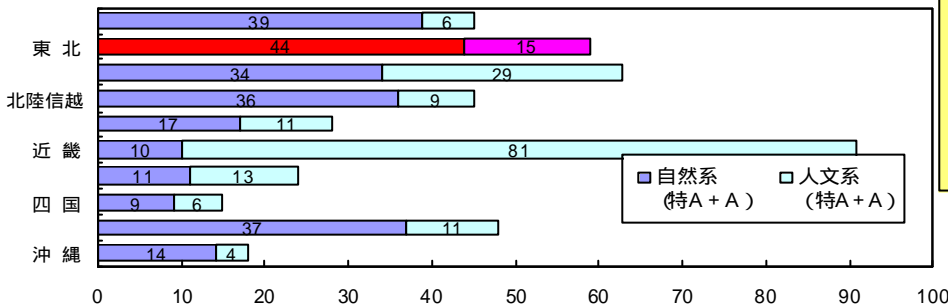
(東北地方交通審議会 観光戦略部会 報告概要)

近隣アジア地域を中心に
国際観光需要の飛躍的拡大
が見込まれることなどから、
**観光は 21 世紀のリーディング
産業として期待されます。**

出典：JNTO 国際観光白書 2002 年版



評価観光資源数
～自然系を中心に観光資源に恵まれる東北～



豊かな観光魅力や高速交通
基盤を活かした
**観光振興は、東北地方の
地域活性化の「カギ」となります。**

資料：(財)日本交通公社
観光資源評価台帳

東北 6 県の官民が一体となって観光振興を推進するための 指針の策定

「東北 6 県観光振興戦略」のポイント

ポイント

～東北の観光動向を踏まえた
7つの重点分野を示しました～

ポイント

～「魅力向上」「誘客・情報発信」
「交通の改善」の各分野ごとに
取り組むべき施策を示しました～

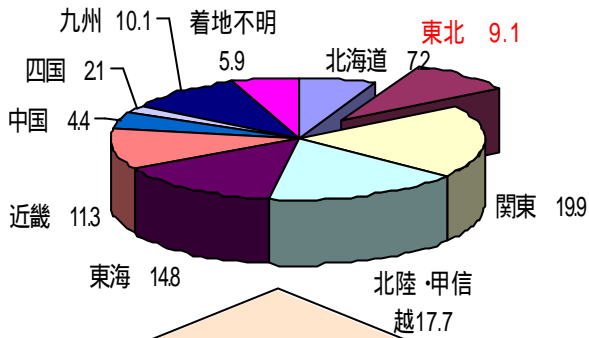
ポイント

～観光振興を進めるための
基本方針を示しました～

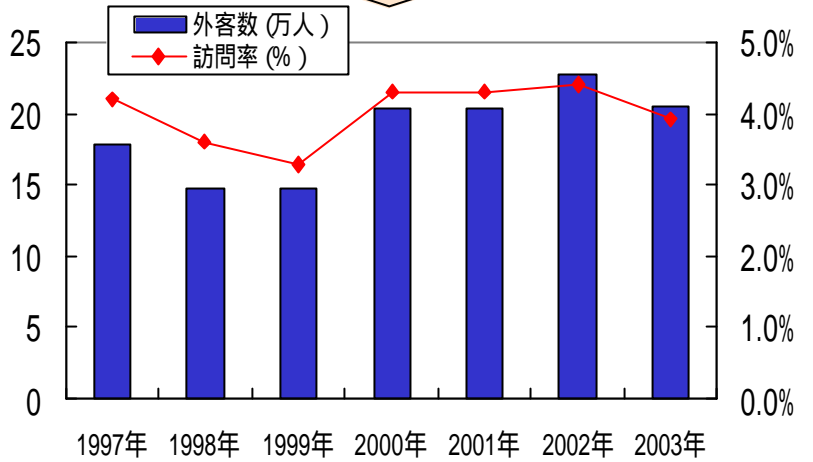
「東北 6 県観光振興戦略」の枠組み
対象地域：東北 6 県
目標年次：今後おおむね 10 年後

「東北地方交通審議会」とは…国土交通省組織令に基づき設置されている東北運輸局長の諮問機関。
(会長：八島俊章東北経済連合会会長)
「観光戦略部会」とは…観光振興に関する専門的な審議を行うため、審議会の下に設置された部会。
(部会長：恩地宏宮城大学教授)

東北地方の観光の動向



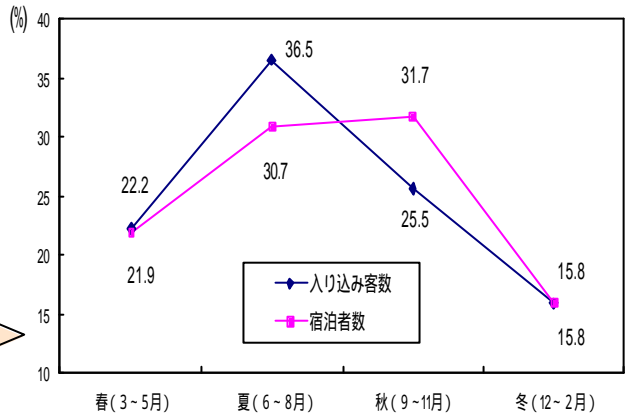
東北を訪れる外国人旅行者の数は、
20万人前後 (我が国全体の約4%)と低い水準
【法務省、JNTO資料により、東北運輸局で推計】



国内宿泊旅行の目的地として
東北のシェアは、約9%
【資料：全国旅行動向調査】

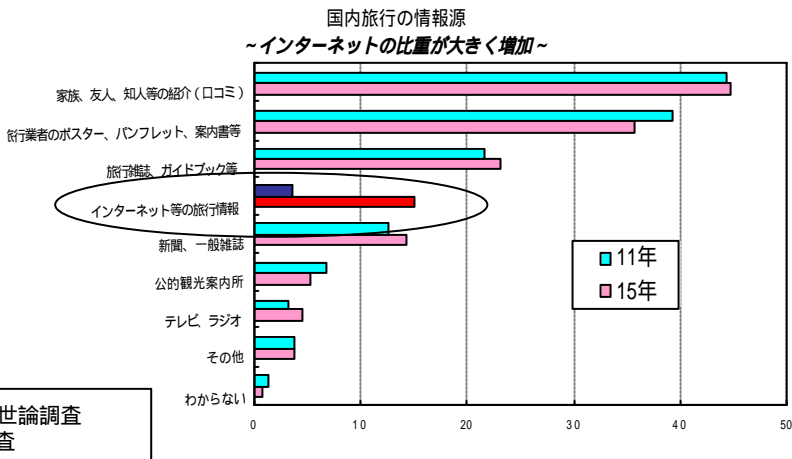
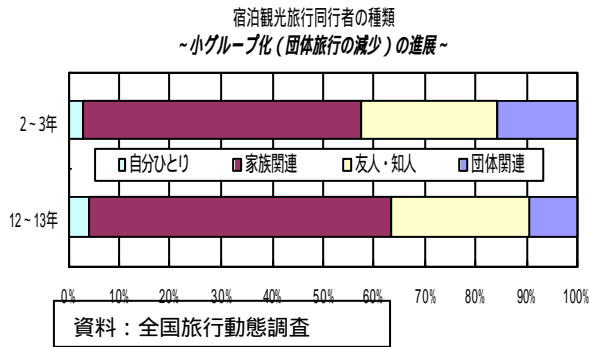
しかし、西日本 (東海以西) からの目的地
としては、どのブロックからも最下位
【資料：全国旅行動向調査】
九州発については、同率最下位

発地ブロック	北海道	東北	関東	北陸・甲信越
割合 (順位)	2.4% (3位)	65.5% (1位)	9.6% (4位)	7.1% (4位)
東海	近畿	中国	四国	九州
0.9% (9位)	2.2% (9位)	0.7% (9位)	0.0% (9位)	1.2% (7位)



季節変動が大きく、入り込み客数・宿泊者数とも
冬はハイシーズンの半分程度にまで落ち込み
【資料：《入り込み客数》各県観光統計より東北運輸局が集計
《宿泊者数》JTB宿在書】

このほか、注目すべき一般動向として、
国内観光における「中高年齢層のニーズの増大」や「個人・小グループ化」
・「インターネットの普及」(観光情報収集手段としてのシェアの高まり) など



東北地方の観光振興の「重点分野」

観光動向等を踏まえた今後の重点分野は以下の7つです

海外重点市場の旅行エージェントを招聘した視察ツアー



インバウンド対策の強化

今後、近隣アジア諸国を中心に飛躍的な国際観光需要の拡大が見込まれます。

一方、東北を訪れる外国人観光客は現状では少なく、掘り起こしの余地が大きいと考えられます。そのため、近隣アジア諸国等をメインターゲットとした、

- ・東北の観光魅力のPR強化
- ・外国人が観光しやすい環境づくり

などのインバウンド対策の強化が最も重要な課題です。



海外からのツアー造成のための商談会

中高年齢層対策の強化

国内旅行で旅行需要の増加がみられるのは、中高年齢層です。そのため、

- ・バリアフリー化などの環境整備
 - ・中高年齢層のニーズを踏まえた魅力づくり
- などを進め、中高年齢層の観光需要の取り込みを図ることが必要です。

小グループ化への対応

国内旅行では、団体旅行の割合が減少する一方、家族や友人・知人などによる小グループ旅行の割合が高まっています。そのため、

- ・体験型メニューの充実
- など、小グループ旅行のニーズへの対応を進める必要があります。

冬季の観光振興 対策の強化

冬季の観光需要の落ち込みは、東北の弱点の一つであり、スキー人口の減少がその傾向に拍車をかけるおそれもあります。そのため、

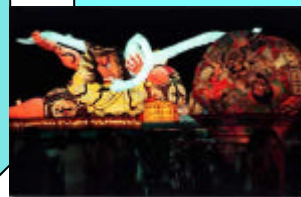
- ・新たな「冬」の魅力の発掘とPR
- などを進めていく必要があります。



ハイシーズン対策の強化

「夏祭り」の時期などのハイシーズンには、

- ・地域間連携による
宿泊地の分散
- など、宿泊施設の容量不足などの問題への対策の強化が必要です。



西日本からの 誘客促進

現状では、西日本からの観光客が少なく、その掘り起こしも東北の課題の一つです。

- ・東北のイメージ浸透策の強化
- などの対策が必要です。



情報通信技術の活用

内外を問わず、旅行の情報源としてインターネットの比重が高まっています。そのため、インターネット上の

- ・情報提供の外国語対応の充実
- ・カード決済の普及

など、情報通信技術の活用が必要です。

多言語で東北の観光情報を発信する「東北観光情報サイトデータベース」<http://travel.japan-tohoku.com/kankou/index.html>

東北地方の観光振興の基本方針

東北地方の観光振興を進める際の基本的な考え方は以下のとおりです

「オリジナリティ」の発揮

「地域ならではの」「東北ならではの」魅力を磨き上げ、他地域との差別化を図ることが重要です。

「地域づくり」の視点

「点」としての「観光地」でなく、「面」としての「地域」づくりを地域住民の活力も活用して進めることが重要です。

「マーケティング」事業評価

効果的・効率的に観光振興を進めていくためには、事前のマーケティングや事後評価が重要です。

「スピード感」をもった施策の展開

観光を巡るグローバルな競争が激化する中では、他に先駆けて取組みを進めることが重要です。

「連携」の推進

広域周遊観光のニーズに対応するため、また、東北のイメージの希薄な地域への浸透を図るため、東北6県の官民が広域的に一体となって取り組んでいくことが重要です。

取り組むべき施策

「魅力向上」「誘客・情報発信」「交通の改善」に分けて示しました

地域の観光魅力の向上

地域の長所・特性の活用
「祭り」「温泉」「四季」など
観光需要の変化への対応
外国人の旅行しやすい環境づくり
「中高年層」「小グループ」対応
異業種間連携、
NPO・地域住民との連携
地域の総力をあげた観光魅力向上
東北全体のレベルアップ

誘客活動・情報発信

東北の官民が広域連携による外客誘致活動の強化
「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の強力な展開
旅行造成の支援体制の強化
情報発信の多言語化
国内向け誘客活動の充実
国内向け誘客活動の連携強化
マスコミ・メディアとのタイアップ

観光振興に向けた交通の改善

地域間交通の改善
二次交通の充実
空港・駅から観光地へのアクセスの充実
また、二次交通の情報提供の充実
外国人観光客への対応
交通機関の観光魅力増大
交通機関そのものを観光資源に

施策の実施状況を毎年度フォローアップし、着実な推進を図ります

そして、

東北運輸局は、ビジット・ジャパン・キャンペーンの一層の強化をはじめ、東北の観光振興に向けた取組みを強力に支援していきます



お問合せ先：東北運輸局企画振興部企画課
観光振興課

〒983-8537 宮城県仙台市宮城野区鉄砲町1 仙台第4合同庁舎
電話：022-791-7507, FAX：022-791-7538